

令和8年第2回（3月）筑紫野市議会定例会会派代表質問

会派名	質問者	質問題目	質問項目
つくし野	横尾 秋洋	1 市長のマニフェスト及び筑紫野市第七次総合計画	(1) 市長立候補時の公約に対し、進捗状況はどのように自己分析されているのか。
			(2) 市長のマニフェストは、16分野73項目が掲げられている。数値としての達成状況は。進捗管理の手法は。
			(3) 仮に未達成の項目がある場合、予算に反映されたのか。残りの任期約10カ月で具体的にどう取り組むのか。
			(4) 第七次筑紫野市総合計画の進捗と検証は。議会からの7つの政策6つの施策提言に対する進捗は。
		2 政策①「人が生まれ、活躍できる子育て・教育のまちづくり」	(1) 待機児童及び入所保留児童を解消できる見込みなのか。入所保留児童数も解消すべきでは。今後の見通しは。
			(2) 保育士不足の状況は。地域限定保育士の活用は。確保等対策として、新たに給与上乗せや家賃補助増額を。
			(3) 子育て支援拠点は、2拠点でカバーできるのか。新たに多機能型のこども館を設置すべきでは。
			(4) 子育てに係る経済的負担軽減策で、自治体間で格差が生じているが、医療・保育等の無償化など独自支援策は。
			(5) 先生方の座談会の実績は。現場では、職員室に机が1人に1台ない状況だが、現場の声は届いているのか。
			(6) 平成26年度に整備された普通教室の空調設備に関し、早急に更新が必要と考えるが、具体的な計画は。
			(7) 水泳授業外部委託により、市民が利用できるプールが無くなる。市内にプール施設を誘致・整備すべきでは。
			(8) 大規模校・過大規模校及び特別支援学級の増加に伴い、市内全域における新設や校区再編等の考えは。
			(9) 放課後児童クラブに関し、児童の増加が見込まれるが、今後の受け皿整備や運営方針は。
			(10) ICT教育に関し、学習支援体制の強化は。その現状と課題は。学びを継続させるための具体策は。
			(11) 中学校給食費の無償化は、今後も継続的に取り組むべきでは。制度化に向けた検討状況は。
			(12) 学習の場として、生涯学習センターの学習室を未使用時に開放しては。各コミセンにも整備すべきでは。
			(13) 日本版DBSがはじまるが、対応方針は。放課後児童クラブ等も対象に含めるべきでは。
		3 政策②「市民が織りなすスポーツと文化のまちづくり」	(1) 現状、総合体育館の建設時期の見通しは。検討を加速するとあるが、今後の具体的なスケジュールは。
			(2) Wi-Fi通信式のキーボックス設置は、体育館に限らず全公共施設にも展開できるが、その計画は。
			(3) 中学校部活動の地域展開により、場所の確保や保護者の費用負担・送迎等のように対応されるのか。
			(4) 竜岩自然の家の利用促進策として、指定管理者制度の導入や専門家の配置を検討すべきでは。
			(5) 文化会館のユニバーサルデザインを早急に進めるべきと考えるが、方針は。大規模改修の時期と新設の検討は。
			(6) 日本遺産「古代日本の『西の都』」に関し、再申請の検討状況と、令和8年度の具体的な取組は。
		4 政策③「自然をまもり未来を育むまちづくり」	(1) ゼロカーボンシティ宣言を表明されたが、2050年までのロードマップを作成すべきでは。
			(2) 大規模太陽光発電設備に関する規制条例を制定すべきでは。
5 政策④「強みをいかした多様な産業で賑わうまちづくり」	(1) プレミアム付地域活性化商品券の発行総額を増額すべきでは。また完全デジタル化を含めた今後の運営方針は。		
	(2) 中小企業振興を推進するため、中小企業振興に関する条例を制定すべきでは。		
	(3) 企業誘致に関し、以前の方針で民間活力を活かした取組を進めるとのことであったが、その後の進捗と成果は。		
	(4) 新農業基本法が描く農業の構造転換の姿が見えない。特色を生かした市独自の農業政策を打ち出すべきでは。		

令和8年第2回（3月）筑紫野市議会定例会会派代表質問

会派名	質問者	質問題目	質問項目
			(5) 農業振興地域整備計画が改訂されるが、主な変更点は、耕地面積の減少と耕作者不足に対し、抜本的な対策は。
			(6) 有害鳥獣対策として、狩猟免許の更新費用や捕獲後の埋却負担軽減策も検討すべきでは。
			(7) 森林環境譲与税等を活用し、新たな木育施設や玩具等の活用、地元産つみきのプレゼントなど検討すべきでは。
			(8) 天拝山と二日市温泉の文化観光の推進における具体的な取組は。商工観光振興計画の見直し状況は。
			(9) 商工業及び観光業の振興に資するべく、容積率の緩和など都市計画の見直しも含めた宿泊施設誘致の考えは。
		6 政策⑤「支えあい、暮らしに寄り添う福祉のまちづくり」	(1) 介護・障がい者分野における人材確保策として、処遇改善が必要。給与上乗せや家賃補助など実施すべきでは。
			(2) 重層的支援体制として、相談窓口を設置すべきでは。多機関協働参加予定者の合意形成はどう図っていくのか。
			(3) 居住支援を効果的に行うには、居住相談支援員にとどまらず、居住支援協議会の設立を検討すべきでは。
			(4) 昨年施行された「手話施策推進法」に対する所信を問う。
		7 政策⑥「安全安心で快適な暮らしを支えるまちづくり」について	(1) 地域防災計画、避難所運営や備蓄計画の再構築、個別避難計画など抜本的に見直すべきでは。時期や方針は。
			(2) 避難所と緊急避難場所に指定されている二日市東小学校の具体的な浸水・治水対策は。
			(3) 林野火災注意報・警報の運用方針は。警報発令下での屋外火気を具体的にどのように制限されるのか。
			(4) 犯罪被害者等見舞金制度の創設について、国・県の制度との違いは。また、創設の目的と必要性は。
			(5) 特殊詐欺・SNS型投資ロマンス詐欺被害防止に対する強化が必要だが、今後の具体的な取り組みは。
			(6) 防犯カメラの増設が必要。個人宅も含め設置補助を設けるべきでは。
			(7) 国道3号バイパスの渋滞、針摺交差点及びトンネルの交通安全対策の進捗と今後の具体的な対策と取組は。
			(8) 通勤通学、フリー乗降等課題があるが区切りといえるのか。AIデマンド交通の対象外地域も検討すべきでは。
		8 政策⑦「政策実現のための市民目線の行財政運営」について	(1) 将来の人口減少に備え、組織改編や他自治体との共同処理など具体的な検討を進めるべきでは。
			(2) 農業・文化財の専門職員の配置及び地域公共交通・ふるさと納税課を新設すべきでは。
			(3) 職員育成に関して、国や民間企業などへの派遣及び受け入れについても取り組むべきでは。
			(4) コミュニティ運営協議会の活動拠点は、小学校単位とされているが、吉木・阿志岐の運営協議会の発足は。
		9 「令和8年度の予算編成」について	(1) 国や県事業の進捗状況をどのように捉えているのか。国会議員や県議会議員との更なる連携は。
			(2) 過去最大の予算編成となるが、その背景は。歳入・歳出の課題は。

令和8年第2回（3月）筑紫野市議会定例会会派代表質問

会派名	質問者	質問題目	質問項目
市民会議	吉村 陽一	1 はじめに	(1) 市長任期の最後の年となるが、これまでの施策をどのように評価されているか。
		2 人が生まれ、活躍できる子育て・教育のまちづくり	(1) 子どもの約9人に1人が貧困であるという認識の中、子ども食堂の存在意義や支援の考えは。
			(2) 保育人材確保のための、さらなる受入体制の強化はどのように進めるのか。
			(3) 日本の保育は行事に偏りがちであるという指摘があるが、質の充実とはどのようなことを指すのか。
			(4) 地域子育て支援拠点整備について、他地域での整備はどのように考えているのか。
			(5) 5歳児健診の目的はどのように設定され、得られた成果から、どのような手立てをとるのか。
			(6) 児童育成支援拠点は、具体的にどのような内容で、場所とスタッフはどのように考えているのか。
			(7) 筑紫小学校と筑紫東小学校の放課後児童クラブ室増築の場所の確保はどのように考えられているのか。
			(8) 放課後児童クラブの指導員の資質向上のための研修などはどのように行われているのか。
			(9) タブレットから「紙と鉛筆」に回帰する動きがあるがデジタルと紙の両立の考え方は。
			(10) 学校図書室における、学校司書の勤務体制の拡充で、どのような機能の充実を図るのか。
			(11) コミュニティ・スクールの、PTA組織との連携の状況と課題はどのようなものか。
			(12) 地域学校協働活動推進員はどのような役割を果たしているのか。
			(13) 小中学校の長期休暇中に昼食が取れない児童生徒へ、給食を提供することができないか。
			(14) 学校給食で使われる原材料を、市内の生産者、事業者が安定して供給できる仕組みを考えるべきでは。
(15) 放課後子ども教室の運営スタッフはどのような方々でその確保、場所は。他どのような課題があるのか。			
3 市民が織りなすスポーツと文化のまちづくりについて	(1) 総合スポーツ施設の検討は、整備地が確定しなければ、進めることが難しいが、どのように考えているのか。		
	(2) 部活動の地域展開は、専門的指導力、広域的ネットワークを有する組織との連携体制構築が必要ではないか。		
	(3) 竜岩自然の家は、環境教育の場として小中学生の自然環境の学びの場、森林浴の場として整備してはどうか。		
	(4) 文化会館の、利用者の利便性を高めるためにエスカレーターの設置など抜本的な対応策の考えは。		
	(5) 国指定史跡前畑遺跡整備の保存活用計画を策定には、どれくらいの期間を要し、完成の時期のめどは。		
	(6) 小中学校の体育館、グラウンド等の多機能化は災害時の利便性、快適性の向上となる。多機能化検討の考えは。		
	(7) 小中学校体育施設は、利用団体を厳格に管理し、市民の活動時間を確保できるようにすべきでは。		
4 自然をまもり未来を育むまちづくり	(1) 筑紫野市の自然環境の現状の調査、保護、保全は、どのような取り組みをしているのか。		
	(2) 平成13年作成の「郷土の野山を訪ねて」筑紫野市自然観察ガイドブックを再度市民協働で作成してはどうか。		
	(3) CO2排出削減、化石燃料に頼らないエネルギーの安定供給を目指す次世代技術への投資を検討しているのか。		
	(4) 自然エネルギー活用のための太陽光発電や蓄電池等への補助金の強化が必要ではないか。		

令和8年第2回（3月）筑紫野市議会定例会会派代表質問

会派名	質問者	質問題目	質問項目
		5 強みを生かした多様な産業で賑わうまちづくり	(1) 地域活性化商品券は、低所得者は使いにくく、使用できる店舗も偏りがある。解消されるのか。 (2) 農業振興地域整備計画の改訂で、どのような本市の農地利用の姿をめざすのか。 (3) 筑紫野市の農業を支えている小規模農家などへの支援はどのように考えているのか。 (4) 特産の生姜、白ネギ、ブロッコリーをブランド化し、安定した生産、供給の支援をするべきではないか。 (5) 市民の命を守る農業を持続可能にするために、農家と市民と共に「自産自消」に取り組むべきではないか。 (6) 増加する有害鳥獣被害対応策として、持続性のあるガバメント・ハンターを育成すべきではないか。 (7) 森林環境譲与税を活用し、森林ボランティアの拡大、特に中高生の参加の呼びかけをすべき。
		6 支えあい暮らしに寄り添う福祉のまちづくりについて	(1) 重層的支援整備事業の交付金削減の報道があったが、市はどのように対応するのか。 (2) 地域で取り組まれている暮らしを支える市民活動を支える仕組みの充実が、重要になっているが、その進め方は。 (3) 高齢者福祉分野の人材確保戦略・委託内容の見直し・地域包括支援センターの人材戦略の具体的内容は。 (4) 新たな子どもの学習支援事業は全庁的な取り組みが必要ではないか。 (5) 人権政策・男女共同参画課は、人権政策・ジェンダー平等推進課としてはどうか。 (6) 部落差別の解消の推進に関する条例の理念の具体化と、同和教育の推進はどのように考えているのか。
		7 安全安心で快適な暮らしを支えるまちづくり	(1) インフラ整備を進めるための計画はどのようなものか。 (2) 情報を活かす体制、地域防災計画の整備状況と有効性の点検、実施状況の確認等はどのようにするのか。 (3) 新しいハザードマップの周知と共に、コミュニティや自治会での避難訓練を実行し、その状況を把握すべきでは。 (4) 流域治水の観点から、河川整備と貯留機能の強化を推進とあるが、本格的な浸水対策の検討とは。 (5) 立地適正化計画の策定とあるが、現在のコミュニティとの関連はどのように考えているのか。 (6) 筑紫公園の基本設計のコンセプトはどのようなものか。開設時期はいつ頃を目指すのか。 (7) 交通体系の再編で、公共交通の環境整備が行き届いてはいない。残された空白地はどのように考えているのか。
		8 政策実現のための市民目線の行財政運営について	(1) DX化で取り残される市民が必ずいる。どのような根拠で経営の効率性と職員の数決定されるのか。 (2) 対人サービス充実が必要な部署に人員を配置する必要がある。人員配置や定数条例を見直してはどうか。 (3) 即戦力となる退職した職員のカムバック採用などを実施してはどうか。 (4) 座談会などでの意見集約はよいが、声なき声にはどのように寄り添い、どのように聞いていくのか。

令和8年第2回（3月）筑紫野市議会定例会会派代表質問

会派名	質問者	質問題目	質問項目
公明党 筑紫野市議団	坂口 勝彦	1 はじめに	(1) 第七次総合計画「後半戦・実行段階」とあるが、市長が考える最大の成果と課題は何か。
		2 人が生まれ、活躍できる子育て・教育のまちづくりについて	(1) 出生数6万8千人という危機的状況を、国任せではなく、本市として独自に果たす役割は何か。 (2) 「子ども誰でも通園制度」の円滑な実施に向けた市独自の補助金とは、具体的にどのようなものか。 (3) 地域子育て支援拠点整備において、運営体制（人員・機能・連携）をどのように考えているのか。 (4) モデル的に5歳児健診を実施されるが、成果判断の基準と横展開の時期、並びに専門職の確保体制は。 (5) 第三の居場所となる児童育成支援拠点へ早期につなげるための連携は、どのように構築するのか。 (6) 体育館空調整備の完了時期と優先順位、避難所の機能として電源確保・停電対策等、どこまで想定しているのか。 (7) 水泳授業民間委託による教育効果と教職員の負担軽減の具体的な内容を伺う。 (8) 学校給食費無償化を持続可能な支援とするため、財源確保をどのように考えているのか。
		3 市民が織りなすスポーツと文化のまちづくりについて	(1) スポーツ施設整備基本構想に基づく検討を加速するとあるが、市民への説明・合意形成はどのように行うのか。 (2) 学校体育館のWi-Fiキーボックスの災害時や停電時の運用、セキュリティ上のリスクへの対策は。 (3) 中学校部活動の地域展開は、保護者負担・指導者確保・教員の関与の在り方をどのように整理しているのか。 (4) 前畑遺跡について、市民が郷土に誇りを持てるような参画型の取り組みを行ってはどうか。
		4 自然をまもり未来を育むまちづくりについて	(1) 温室効果ガス60%削減という国の目標を受け、本市の実効性確保のための数値管理や進捗確認の仕組みは。 (2) 公共施設照明設備のLED化や電動バイク導入は、どのように効果を検証し、今後の拡大につなげていくのか。
		5 強みをいかした多様な産業で賑わうまちづくりについて	(1) プレミアム付き商品券を生活者・事業者支援の両立、また単年度施策から構造的支援へ繋げることはできないか。 (2) 有害鳥獣対策における担い手と安全確保は、さらに踏み込んだ支援策を検討できないか。 (3) 観光施設整備が来訪者数・滞在時間・消費額の向上にどう結び付くのか、数値目標の有無を伺う。
		6 支えあい、暮らしに寄り添う福祉のまちづくりについて	(1) 重層的支援体制構築について、相談の入り口から支援につながるまでの具体的な流れと責任部署の整理を伺う。 (2) ひきこもり支援、居住相談支援、子どもの学習支援は、個別施策が一体的に機能する体制をどう構築するのか。 (3) RSウイルスワクチン定期接種の周知と体制整備並びに高齢者を含めた定期接種の必要性をどう考えているのか。
		7 安全安心で快適な暮らしを支えるまちづくりについて	(1) ハザードマップ改訂に伴う情報提供について、高齢者や要配慮者への周知をどのように担保するのか。 (2) 鷺田川周辺の防災対策として、リアルタイムに情報発信ができる水位センサーの増設が必要ではないか。 (3) AIデマンド交通・コミュニティバスの利用実績と収支状況の評価、今後の持続可能性をどう考えるか。
		8 政策実現のための市民目線の行財政運営について	(1) 9コミュニティ体制への再編について、地域間格差が生じない伴走支援をどのように行うのか見解を伺う。 (2) 自治体DX・生成AI導入により、業務効率化だけでなく、市民への対面支援をどのように充実していくのか。
		9 令和8年度予算編成について	(1) 公共施設の更新需要が同時期に集中していくが、投資の優先順位をどう整理し、財政負担を平準化するのか。 (2) 現時点で最も大きな財政リスク要因をどこに見ているのか、またそれにどう備えるのか。 (3) 第七次総合計画の正念場で財源をどう配分するのか。また持続可能、強固な財政基盤構築に向けた市長の決意は。